

以語料庫為本的「清らか」與「清い」之比較 —兼論與華語<清>之對比—

賴錦雀

東吳大學日本語文學系特聘教授

摘要

本論文為日語「Xラカ」型形容動詞及其同根同漢字表記「Xイ」形容詞之研究成果的一環。考察結果可歸納如下。用法方面「清らか」比「清い」活潑多元。語意方面「清い」的基本義為水澄清無汙染。此基本義經由隱喻的過程轉變為未受汙染的自然現象、物事、環境的樣態以及人心純真的狀態。而人心純真的狀態再經由隱喻過程擴張為沒有慾望等世間汙濁要素之清廉潔白的狀態。「清らか」的語意與「清い」相近。不過，文脈相同時，「清い」表示無汙染的水或自然界之本質，而「清らか」則經由轉喻變成表現者對於無汙染狀態的感動心情。不過，與日語「清らか」「清い」相對應的華語不一定以<清>表達，因此以台灣人為對象的日語教育現場應該要加以留意。

關鍵詞：清らか、清い、用法、語意、日華語對比研究

受理日期:2021年 08月 31日

通過日期:2021年 10月 29日

DOI:10.29758/TWRYJYSB.202112_(37).0005

**Comparison of “Kiyoraka” and “Kiyoi” in the corpus:
-In contrast to Chinese <ching>-**

Lai, Jiin-chiueh

Professor, Soochow University, Taiwan

Abstract

This paper is part of the results of a study of Japanese "X-Raka" type adjectives and their same root same kanji notation adjective "X-I". The subject of study is the usage and meaning of "kiyoraka" and "kiyoi". The results of the study can be summarized as follows. In terms of meaning, the basic meaning of "kiyoi" is that the water is clear and uncontaminated. From this basic meaning, the word has become a metaphor to describe natural phenomena, things, and the environment that are free from turbidity and dirt, the feeling of being refreshed, and the purity of the human heart. Then, through metaphor, the meaning was extended from the purity of a person's heart to expressing purity and innocence without lust or other worldly stains. "The word "kiyoraka" is close in meaning to "kiyoi". However, in the same context, "kiyoi" expresses the essence of water-nature without turbidity or contamination, while "kiyoraka" has changed its meaning from its basic meaning to express the feeling or emotion of the expresser for the absence of turbidity or contamination by metonymy. However, the Chinese word for "kiyoraka" or "kiyoi" is not always expressed by "ching <清>" so be careful when teaching Japanese language to Taiwanese.

Keywords: kiyoraka, kiyoi, usage, meaning, contrast with Chinese.

コーパスにおける「清らか」と「清い」の比較 —中国語<清>との対照を兼ねて—

頼錦雀

東呉大学日本語文学系特聘教授

要旨

本論文は日本語「Xカ」型形容動詞とその同根同漢字表記形容詞「Xイ」に対する研究の成果の一環である。考察対象は「清らか」と「清い」の用法と意味であるが、考察結果は次のようにまとめられる。用法においては「清い」より「清らか」の方が活発である。意味においては「清い」の基本義は水が澄んで汚れのないさまであるが、その基本義からメタファーによって濁りや汚れのない自然現象や物事、環境の様子、気持ちがさっぱりするさま、人の心が純真であることを表す。そして、人の心が純真であることからメタファーによって欲望など世間の汚れがなく清廉潔白であることを表すように意味拡張した。

「清らか」は意味が「清い」に近い。しかし、同じ文脈の場合では、濁りや汚れのない水・自然などの本質を表す「清い」とは違って、その基本義からメトニミーによって、濁りや汚れのないことに対する表現主の気持ちや感動を表すように意味が変化する。但し、「清らか」、「清い」に対応する中国語は<清>で表現されるとは限らないので、台湾人に対する日本語教育では要注意である。

キーワード：清らか、清い、用法、意味、中国語との対照

コーパスにおける「清らか」と「清い」の比較 —中国語〈清〉との対照を兼ねて—

頼錦雀

東呉大学日本語文学系特聘教授

1.はじめに

いろいろな日本語の語彙資料において漢語は和語より多く使われている、という統計結果が出されているが、調査で首座を漢語に譲っている和語の強みは、多くが耳で聞いて分かる話し言葉の世界の語だということである¹。漢字に頼る傾向にある台湾人日本語学習者にとって、和語の習得が難関になる可能性が大きいと考えられる。特に、同じ漢字表記で表わされる同根の形容詞と形容動詞の意味弁別はもっと難しくなるかと思われる。本論文では「清らか」と「清い」を中心に「Xラカ」型形容動詞とその同根同漢字表記の「Xイ」型形容詞の用法と意味を考察したいものである。また、台湾の日本語教育のために中国語〈清〉との対照比較も兼ねて行う。

日本国立国語研究所の研究課題「現代日本語における書き言葉の実態解明と雑誌コーパスの構築」における「現代雑誌 200 万字言語調査語彙表」²の 55,223 語における形容動詞は 1,408 語ある。そのうち、「～カ」型形容動詞は 64 語あるが、「～ラカ」型は「明らか、麗らか、大らか、清らか、滑らか、高らか、なだらか、誇らか、安らか、柔らか」の 10 語がある。「なだらか、すべらか」を除いた 8 語に同根の形容詞がある。使用頻度から見た場合、「柔らか/柔らかい」は同順位で、「清らか/清い、麗らか/麗しい」では、「ラカ」型は「イ」型より順位が高く、そして、「明らか/明るい、大らか/大きい、高らか/高い、誇らか/誇らしい、安らか/安い」では、「ラカ」型は「イ」型より順位が低い³。一方、東呉大学で構築された台湾人日本語学習者作文コーパス (LARP at SCU)⁴で調べた結果、「ラカ」型形容動詞では「明らか」の用例は 5 件観察された

¹ 玉村文郎 (1997 : 115) による。

² 2001 年度～2005 年度実施、2006 年公開。

³ 「現代日本語 200 万字言語調査語彙表」公開版 (ver.1.0) による。

⁴ LARP at SCU は台湾・東呉大学で構築された学習者日本語コーパスである。収録された日本語作文は 37 名の日本語学科の学生が一年次第二学期の 2004

が、「清らか」を含める外の「ラカ」型形容動詞の用例は見られなかった。そして、「ラカ」型形容動詞の同根形容詞にあたる「明るい、大きい、高い、安い、柔らかい」の使用例が考察された。このような調査結果によって、「ラカ」型形容動詞は台湾人日本語学習者にとって馴染みのない語彙のように思われる。しかし、表1の200万字言語調査結果における使用頻度の順位と表2の現代日本語書き言葉均衡コーパスにおける使用状況を見てみると、日本語教育現場では「ラカ」型形容動詞を疎かにしてはいけないことが分かる。

(表1) 200万字言語調査における「ラカ」形容動詞とその同根形容詞の使用順位

ラカ型	明らか	麗らか	大らか	清らか	高らか	誇らか	安らか	柔らか
順位	1842	16695	8566	13864	13864	30357	12007	1124
イ型	明るい	麗しい	大きい	清い	高い	誇らしい	安い	柔らかい
順位	648	30357	118	30357	141	12007	151	1124

(表2) BCCWJにおける同根「Xらか」「Xい」の使用状況⁵

連用被修飾用法		連体被修飾用法		使用 総数	同根		使用 総数	連体被修飾用法		連用被修飾用法	
異なり 語数	延べ 語数	異なり 語数	延べ 語数		形容詞	形容動詞		延べ 語数	異なり 語数	延べ 語数	異なり 語数
270	1412	629	2590	6541	明るい	明らか	12058	821	279	7381	819
5	8	37	56	155	麗しい	麗らか	45	28	15	4	4
1285	14343	1178	4630	35135	大きい	大らか	307	116	72	55	36
26	43	29	51	435	清い	清らか	261	147	93	24	16
800	5458	2942	15124	38608	高い	高らか	190	11	11	164	59
14	51	12	31	343	誇らしい	誇らか	12	5	5	6	6
274	1991	567	2418	8585	安い	安らか	318	108	52	127	54
286	1098	587	1179	3697	柔らかい	柔らか	864	619	320	41	30

台日両国の言語では漢字共用という現象があるので、日本語が簡単だと思って日本語を習い始める学習者は少なくない。しかし、たとえ同漢字表記語であっても、同形同義語の外に、同形異義語か意味が一部分しか同じでない語もある。台湾における日本語教育的見地から見れば、上述した8語の「ラカ」型形容動詞はすべて漢字表記を持っているが、それは台湾華語(中国語)における同漢字表記語の使い方と同じかどうか、考察する必要がある。また、同根同漢字

年3月から四年次第二学期の2007年5月まで書いたものである。

⁵ NINJAL-LWP for BCCWJによる。NINJAL-LWP for BCCWJは、国立国語研究所(以下、国語研)が構築した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese: BCCWJ)を検索するために、国語研とLago言語研究所が共同開発したオンライン検索システムである。

表記の「ラカ」型形容動詞と「イ」型形容詞の異同点の解明も重要な課題である。

2.本研究の理論的背景

2.1 語彙論

語彙は文法とともに、文章や談話を形成する要素である。しかし、日本語教育現場では文法に比べて、語彙のことは比較的軽く取り扱われてきたように思われる。一般的に言えば、分からない単語があれば辞書でその意味を調べて終わる、というのが学生の学習作業になっている。その語はどのような語族があるのか、日本語の語彙体系でどのように位置付けられるのか、日本人の生活言語や言語文化において、その語はどのようなものなのかなどについて、日本語教育の現場ではあまり考えられていないのではないだろうか。日本語の語彙論では、文法との関係、単語の性質、種類、語種、語構成、体系、類義語、対義語、意味変化、語感、表記、外国語との比較か対照研究など、いろいろな側面からの探求ができる⁶が、本論文は同根同漢字表記の形容動詞、形容詞、そして、中国語との同形漢字について考察するものである。

2.2 対照言語学

同じ語族の諸言語の異同点を究めるのは比較言語学であり、系統が異なる言語の比較は対照言語学である。世界の言語の類型分類によれば、アルタイ語族に属するであろうと言われる日本語⁷は、実質的意味を示す独立の語に文法的意味をもつ接辞が添えられて文法的機能が果たされる膠着語である⁸。それに対して、シナ・チベット語族に属する中国語は、語が実質的意味のみを示し、文法的意味が語順で示される孤立語である⁹。言語類型の異なる日本語と中国語の比較なので本論は対照言語学に属する論述である。

3.先行研究

3.1 漢字研究

⁶ 森田・他（1989）を参照。

⁷ 杉本・岩淵（1994：129）による。

⁸ 田中（1988：19）による。

⁹ 田中（1988：324）による。

日本語の漢字に関する研究は少なくない。例えば、日本・日本語教育学会の学会誌『日本語教育』をキーワード「漢字」で検索してみると、37件の論文があった¹⁰。その多くは漢字指導、漢字字体、漢字語彙処理、漢字理解、学習者の漢字使用意識、漢字の難易度、CAIを利用した漢字教育・学習などに関するものであるが、日中同形漢字表記については台湾人日本語学習者を中心に、字形の誤用からみた日中同形語の干渉及びその対策に関する考察が1本ある¹¹。一方、台湾の学会誌には日中同形漢字語の論文が掲載されている¹²。同根かつ同漢字表記の形容動詞「Xラカ」と形容詞「Xイ」については、管見の限り、頼(2018)と頼(2021)がある。

3.2 「Xラカ」と「Xイ」の意味分析

頼(2018)では「柔らかか」と「柔らかかい」が考察されている。意味特性から見た「柔らかか」と「柔らかかい」の異同点は(表3)のようである。

(表3) 「柔らかか」「柔らかかい」の意味特性¹³

意味	やわらか	やわらかい
物の硬さの程度が小さく、変形しやすいか変わりやすいさま	○	○
外力を受けると変化しやすいさま	○	○
一時変形するがまた元の形に戻る 硬くないさま	○	○
布、髪、毛など心地よい感触を持つさま	○	○
舌触りがいい味	○	○
心地よい香り	○	
穏やかで見ていて心地よい形や明度が高く、彩度が少し低めの色	○	○
しなやかな動き	○	○
穏やかで受け入れられやすい音声	○	○
聞いたり読んだりして心地よい言語表現	○	○
穏やかで気持ち良い感じがするさま	○	○
融通性がある思考様式	○	○
融通性がある性格	○	
融通性がある態度	○	
融通性があるやり方	○	○
内容が世俗的なさま		○

頼(2021)では「高らか」と「高い」の意味と用法について次のように述べられている。心地よい音声を表す基本義と高く評価する価値

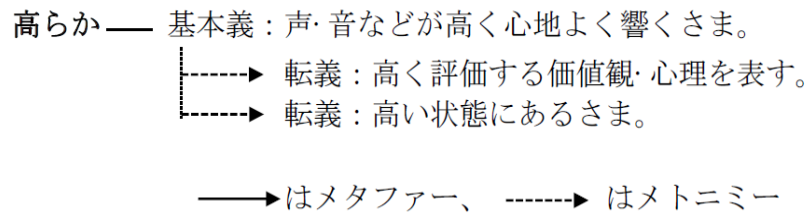
¹⁰ 『日本語教育』掲載論文検索エンジンによる結果である。

¹¹ 林(2002)である。

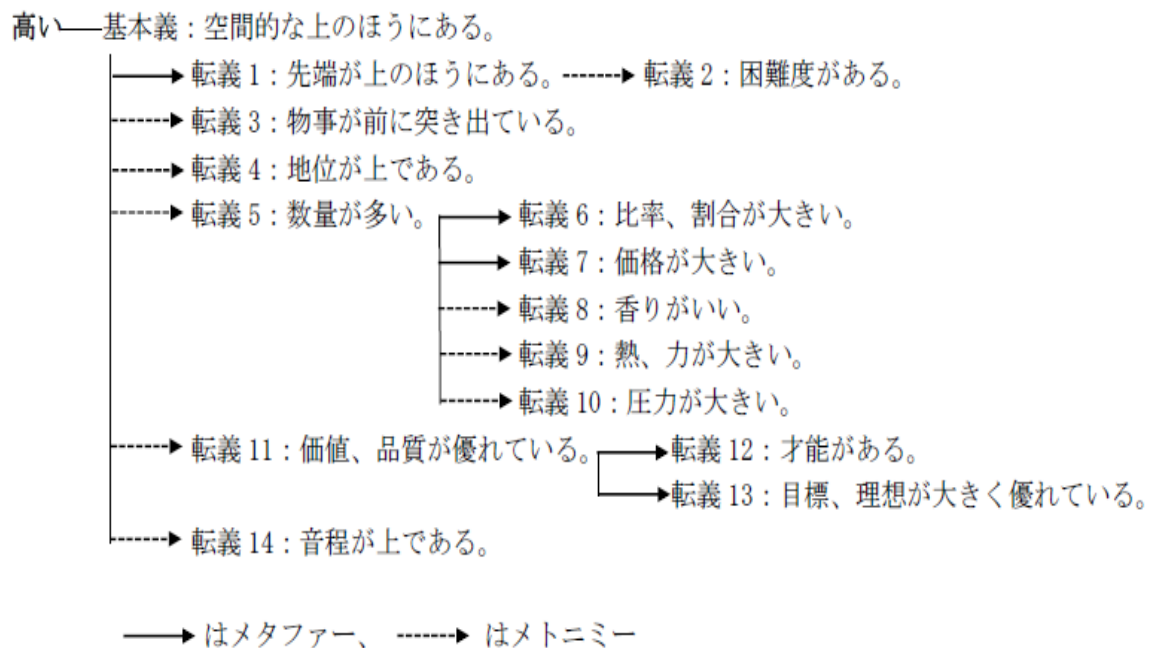
¹² 大井(1997)は日本語の「親切」と中国語の<親切>の意味について論述し、游(2013)は二字日中同形語を中心に、日本語初級語彙における日中同形語の意味および品詞による分類について論じた。

¹³ 頼(2018)による。

観・心理、高い状態にあるさまを表す転義をもつ「高らか」に比べて、「高い」は視覚の空間、聴覚の音声、嗅覚の香り、味覚の香り、触覚の熱を表すほかに、地位、数量、比率、度合、価格、価値観・心理を表す意味が考察された。同漢字表記かつ同根の二語ではあるが、意味と用法はだいぶ違っている(図 1、2 を参照)。



(図 1) 「高らか」の意味構造



(図 2) 「高い」の意味展開図

4. 考察対象と方法

本論文の考察対象は「清らか」と「清い」である。それぞれの用法・意味を比較したあと、その同漢字表記の中国語〈清〉との対照比較をする。考察は次のような手順による。

- (I) 日本国立国語研究所「現代雑誌 200 万字言語調査語彙表」から語幹が「カ」で終わる形容動詞を抽出し、分類する。
- (II) 「～カ」型形容動詞と同根の形容詞をリストアップしたあと、「Xラカ」と「Xイ」の語対をリストアップする。
- (III) BCCWJ の検索ツール「中納言」と「NINJAL-LWP for BCCWJ」¹⁴を利用して、文脈における「清らか」、「清い」が修飾する共起名詞、共起動詞及び「～名詞」形式を考察する。
- (IV) 「清らか」と「清い」のそれぞれの意味を認知意味論的手法で分析した後、両者を比較検討する。
- (V) 台湾『中央研究所漢語平衡語料庫』における中国語〈清〉の用法を調べ、「清らか」、「清い」の用法にあたる中国語を考察し、台湾人に対する日本語教育の注意点を考える。

5.用法から見る「清らか」と「清い」

本節では「清らか」と「清い」が修飾する共起名詞と共起動詞及び「～+名詞」形式について考える。考察にあたり、『分類語彙表』¹⁵によって語彙類型を分類する。

5.1.共起名詞から見る「清らか」と「清い」

5.1.1 「清らか」の共起名詞

BCCWJ における「清らか」が修飾する名詞は抽象的關係 (1.1 類型、34 例)、人間活動の主体 (1.2 類型、29 例)、人間活動 (1.3 類型、74 例)、生産物及び用具 (1.4 類型、8 例)、自然物及び自然現象 (1.5 類型、96 例) の五種類の 68 項目が見られる。名詞用例数が多いのは自然物の「水、川、流れ、空気、光」、人間活動の「心、声、思い、愛」、人間活動の主体の「人、人間、日本」などである。

¹⁴ 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)は、現代日本語の書き言葉の全体像を把握するために構築したコーパスであり、現在、日本語について入手可能な唯一の均衡コーパスである。書籍全般、雑誌全般、新聞、白書、ブログ、ネット掲示板、教科書、法律などのジャンルにまたがって 1 億 430 万語のデータを格納しており、各ジャンルについて無作為にサンプルを抽出している。NINJAL-LWP for BCCWJ はその検索エンジンの一つである。

¹⁵ 本論文で使った『分類語彙表』は 2004 年の増補改訂版である。用例数は延べ語数である。

5.1.2 「清い」の共起名詞

BCCWJにおける「清い」が修飾する名詞は抽象的關係（1.1 類型、6 例）、人間活動の主体（1.2 類型、18 例）、人間活動（1.3 類型、56 例）、生産物及び用具（1.4 類型、9 例）、自然物及び自然現象（1.5 類型、34 例）の五種類の54項目が見られる。名詞用例数が多いのは人間活動の「心、行為、精神、愛、微笑み」、人間活動の主体の「女性、人、国」、生産物の「コーヒー」、自然物の「水、流れ」などである。

5.1.3 「清らか」と「清い」における共起名詞の比較

共起名詞から見た場合、「清らか」の共起名詞は延べ241例、「清い」の共起名詞は延べ123例観察された¹⁶。両方とも「人間」、「心」、「物質」、「天池」、「身体」類型の語彙が多く見られる。「清らか」に用例があつて「清い」に用例がない類型は「存在」、「空間」、「人物」、「社会」、「道具」、「生命」を表す類型の語彙である。「清い」に用例があつて「清らか」に用例がない類型は「事柄」、「家族」、「資材」類型の語彙である。そして、「清らか」が「清い」より用例が多いのは「様相」、「時間」、「言語」、「芸術」、「自然」、「植物」類型の語彙であるが、「清い」が「清らか」より用例が多いのは「生活」、「行為」類型の語彙である。なお、「清らか」にも「清い」にも「類」、「力」、「作用」、「量」、「仲間」、「機関」、「経済」、「事業」、「物品」、「機械」、「生物」類型の用例が観察されなかった。大項目で見た場合、「清らか」の共起名詞では抽象的關係を表す語は34語、人間活動の主体を表す語彙は29語、人間活動を表す語彙は74語、生産物及び用具を表す語は8語、自然物及び自然現象を表す語彙は96語ある。「清い」の共起名詞では抽象的關係を表す語は6語、人間活動の主体を表す語彙は18語、人間活動を表す語彙は56語、生産物及び用具を表す語は9語、自然物及び自然現象を表す語彙は34語ある。以下の（表4-1～5）を参照されたい。

¹⁶ 本節で考察する「清らか」と「清い」の共起名詞は、「～＋名詞」形式における被修飾名詞以外の語もある。例えば、「豆腐の清らかさ」、「几帳も新品で清らかであった」、「神仏様に詣でて、心が清らかで(後略)」における「豆腐」、「几帳」、「心」は「～＋名詞」形式以外の名詞である。

(表 4-1)BCCWJ における「清らか」「清い」が修飾する名詞 (1)

	中項目	語彙分類	清らかの共起名詞	「清い」の共起名詞	
抽象的 関係	1.10 事柄			物	
	1.11 類	1.1111 本末	(恋愛、出会いの)源		
	1.12 存在	1.1200 存在	存在		
	1.13 様相	1.1302 趣 調子	雰囲気		
		1.1310 風 観 姿	姿、内親王の様子、風貌		
		1.1330 性質	抒情性、性質	風格、心境	
		1.1345 美醜	美しさ		
	1.14 力				
	1.15 作用	1.1522 流れ	水の流れ		
	1.16 時間	1.1631 月	月、月光 月神	月、月神	
		1.1690 場合	水環境		
	1.17 空間	1.1700 空間 場所	地、場所		
		1.1720 範囲	境内、土地		
		1.1780 ふち そば まわり 沿い	水辺		
	1.18 形	1.1800 形		(字の) 線	
		1.1820 玉	玉		
	1.19 量				
	人間 活動の 主体	1.20 人間	1.2000 人間	シンデレラ、人間、人、者、	人間、人、上の人
			1.2010 われ		我
1.2020 自他			自分		
1.2030 神仏 精霊			釈尊、天耳通、天使、 如来の御身、女神	天、如来	
1.2040 男女				女性 男	
1.2050 老少			乙女、少女、少年、みどり子、 娘	乙女、少女	
1.21 家族		1.2130 子		子	
1.22 仲間					
1.23 人物		1.2340 人物	聖女		
1.24 成員		1.2410 専門的職業	僧侶	教師	
		1.2411 管理的職業	役人		
1.25 公私		1.2530 国		国	
		1.2590 固有名詞	青梅の軍畑、日本、根来寺、 大和	日光	
1.26 社会		1.2600 社会 世界	浄土		
1.27 機関					

(表 4-2)BCCWJ における「清らか」「清い」が修飾する名詞 (2)

中項目	語彙分類	清らかの共起名詞	「清い」の共起名詞
1.30 心	1.3000 心	心、心身、精神、魂	心、精神
	1.3001 感覚	印象、感覚、感じ、気持ち	気持ち
	1.3010 感情		感情、敬愛の情
	1.3012 恐れ		主への恐れ
	1.3020 愛憎 好悪	愛	愛
	1.3030 表情	微笑み	微笑み
	1.3031 声	歌声、歌唱、声	声
	1.3040 信念	信念	
	1.3050 学習 習慣 記憶	修行	思い出
	1.3060 知 知識	智慧	
	1.3061 思考 意見 疑い	思い、思念、心情	
	1.3074 学問		詩学
	1.3075 主義	リリシズム	
	1.3081 方法	言い方	
1.31 言語	1.3100 言語活動	言うこと	
	1.3101 言語	言葉	
	1.3102 名		名
	1.3104 叙述	抒情	
	1.3113 文字	文字	
	1.3131 話 談話	恋の話	神の言葉
	1.3151 書き	几帳	
	1.3154 文章	叙情詩	
1.32 芸術	1.3210 文藝		物語
	1.3220 芸術 美術	臨書作品、書	
	1.3230 音楽	音楽	
1.33 生活	1.3300 風俗 文化 歴史		風俗
	1.3310 人生 禍福		人生 幸福
	1.3330 生活		生活、life、精神生活
	1.3360 行事		日常行事、参拝の作法
	1.3392 手足の動作	抱擁	
1.34 行為	1.3401 権利		特権
	1.3421 才能		演技
	1.3430 行為	行い	行為
1.35 交わり	1.3500 交わり	関係、交際関係	関係
1.36 待遇	1.3600 支配 政治		政治
	1.3640 教育	主の戒め	
1.37 経済			
1.38 事業			

(表 4-3)BCCWJ における「清らか」「清い」が修飾する名詞 (3)

	中項目	語彙分類	清らかの共起名詞	「清い」の共起名詞
生産物及び用具	1.40 物品			
	1.41 資材	1.4110 紙		和紙
	1.42 衣料	1.4201 布 生地 織物	布	
		1.4210 衣服	衣、法衣	神御衣
	1.43 食料	1.4300 食料		食べ物
		1.4322 豆腐	豆腐	
		1.4350 飲料 たばこ		コーヒー
	1.44 住居	1.4410 家屋 建物		米蔵
		1.4430 部屋		居間
		1.4450 棚 台 壇		神棚
		1.4470 家具	机	
	1.45 道具	1.4514 袋	祝儀袋	
		1.4570 遊具 置物 像	仮面	
	1.46 機械			
1.47 土地利用	1.4710 道路		道	
	1.4720 土木施設	用水		
1.50 自然	1.5000 自然	自然		
	1.5010 光	光、阿弥陀如来の光明、如来の放つ光明		
	1.5020 色	青、白、白色、白のドレス姿	白蓮華、赤	
	1.5030 音	音、鐘の音	静けさ	
	1.5040 におい	青梅の香、感触		
1.51 物質	1.5120 空気	空気、山気、大気		
	1.5130 水	泉の水、温泉、川の水、伏流水、水、冷水、湧き水	水、海水、池水	
	1.5153 雪	雪	雪	
	1.5161 火	火		
1.52 天地	1.5210 天体		朝日	
	1.5250 川 湖	泉、川、溪流、大河・最上川、流れ、野川の流れ	泉、川、流れ	
	1.5270 地相		木立	
	1.5290 景	景色		
1.53 生物				
1.54 植物	1.5401 木本	ミツノカシワ		
	1.5410 花	アネモネ、紅梅、菊の花、白梅、睡蓮、薔薇、ダイヤモンドリリー	辛夷の花	
1.55 動物	1.5501 哺乳類		獣	
	1.5502 鳥類		鳥	
	1.5504 魚類	水魚		
1.56 身体	1.5600 身体	身体的结合、身	身	
	1.5601 頭 目鼻 顔	顔、顔、目、眼	眼、瞳	
	1.5602 胸	乳房、胸		
	1.5603 手足	手		
	1.5604 内臓	腸の中		
	1.5607 体液 分泌物	唾液、血、涙		
1.57 生命	1.5700 生命	生命		
	1.5701 生	生		
	1.5702 死	死		

(表 5)共起名詞から見る「清らか」と「清い」

	中項目	「清らか」の用例数	「清い」の用例数
抽象的関係	1.10 事柄	0	1
	1.11 類	1	0
	1.12 存在	1	0
	1.13 様相	17	1
	1.14 力	0	0
	1.15 作用	0	0
	1.16 時間	7	3
	1.17 空間	6	0
	1.18 形	2	1
	1.19 量	0	0
人間活動の主体	1.20 人間	20	13
	1.21 家族	0	1
	1.22 仲間	0	0
	1.23 人物	1	0
	1.24 成員	2	1
	1.25 公私	5	3
	1.26 社会	1	0
	1.27 機関	0	0
人間活動精神及び行為	1.30 心	55	37
	1.31 言語	7	2
	1.32 芸術	6	1
	1.33 生活	1	8
	1.34 行為	1	6
	1.35 交わり	3	1
	1.36 待遇	1	1
	1.37 経済	0	0
	1.38 事業	0	0
	生産物及び用具	1.40 物品	0
1.41 資材		0	1
1.42 衣料		3	1
1.43 食料		1	3
1.44 住居		1	3
1.45 道具		2	0
1.46 機械		0	0
1.47 土地利用		1	1
自然物及び自然現象	1.50 自然	13	2
	1.51 物質	38	16
	1.52 天池	15	7
	1.53 生物	0	0
	1.54 植物	7	1
	1.55 動物	1	2
	1.56 身体	19	6
	1.57 生命	3	0
	合計	241	123

5.2 共起動詞から見る「清らか」と「清い」

BCCWJ における共起動詞では「清らか」は延べ 25 例、「清い」は延べ 38 例観察された。共起名詞とは違って、「清らか」の用例より「清い」の用例の

方が多く見られた。殆どの用例は1例しかなかったが、「清らか」の共起動詞で3例以上あるのは「する」(8例)と「なる」(3例)で、「清い」の共起動詞で3例以上あるのは「する」(7例)、「生きる」(6例)、「澄む」(4例)、「保つ」(3例)である。大項目で見た場合、抽象的關係を表す語彙では「清らか」も「清い」も3例、人間活動を表す語彙では「清らか」は15例、「清い」は20例、自然現象を表す語彙では「清らか」は7例、「清い」は15例ある。

(表6)BCCWJにおける「清らか」と「清い」の共起動詞

	中項目	語彙分類	共起動詞	
			清らかに	清く
抽象的關係	2.10 真偽			
	2.11 類			
	2.12 存在	2.1200 存在		ありうる
		2.1220 成立		創り設ける
	2.13 様相	2.1340 調和 混乱	散る	
		2.1341 弛緩 粗密 繁簡	引き締まる	
	2.14 力			
	2.15 作用	2.1504 連続 反復	続く	受け継ぐ
	2.16 時間			
	2.17 空間			
2.18 形				
2.19 量				
人間活動 精神及び行為	2.30 心	2.3001 感覚		感ずる
		2.3031 声	歌う	
		2.3067 決心		あきらめる
	2.31 言語			
	2.32 芸術			
	2.33 生活	2.3320 労働 作業 休暇		働く
		2.3330 生活 起臥	暮らす	過ごす
		2.3332 衣生活		脱ぐ
	2.34 行為	2.3430 行為 活動	する、なる	受け入れる、する
	2.35 交わり	2.3500 交わり	別れる	別れる
	2.36 待遇	2.3630 人事		仕える
		2.3640 教育 養成		養育する
	2.37 経済	2.3701 所有		保つ
2.3710 経済 収支			金を使う	
2.38 事業	2.3830 運輸	(祝儀袋を)運ぶ		
自然物及び自然現象	2.50 自然	2.5010 光	輝く	すき透る
		2.5030 音	こだまする	
		2.5060 材質	澄み渡る、澄む	澄み渡る、澄む
	2.51 物質	2.5130 水 乾湿	湧き出る	
	2.52 天池			
	2.56 身体			
2.57 生命	2.5701 生	咲く	生きる、生き抜く	
	2.5702 死		死ぬ	

5.3 「～+名詞」形式から見る「清らか」と「清い」

BCCWJにおける「清らかな(名詞)」形式の被修飾名詞は「存在、雰囲

気、風貌、姿、抒情性、こと、美しさ、水環境、地、場所、土地、境内、水辺、圭、玉、お方、者、人間、人、女神、天耳通、天使、少女、聖女、僧侶、役人、大和、信心、「あの世」（浄土）の世界、かた、彼女の魂、魂、心、感じ、気持ち、感覚、愛、微笑み、無生の声、歌声、読経の声、声、信念、修行、智慧、思い」である。「清い（名詞）」形式における名詞は「もの、事、乙女、少女、人（達）、心、敬愛の情の流れ、愛、名、特権、政治、色、水、泉、流れ、海水、眼、思い出、風俗、獣、鳥、微笑み、関係、国、心持」である。共通名詞は「人、少女、心、愛、微笑み、もの、関係、水、泉、流れ」である。つまり、「清い（名詞）」形式より「清らかな（名詞）」形式の数が多いのである。

6.意味から見た「清らか」と「清い」

『岩波国語辞典』（第五版）、『新明解国語辞典』（第七版）、『明鏡国語辞典』（初版）、『日本国語大辞典』（第二版）¹⁷における意味記述を見ると、「清らか」の意味は殆ど「清い」で解説されている(表7)。それは「清らか」が「清い」の語形成による合成語だからである。

(表7)辞書における「清らか」「清い」の意味記述

意味記述	岩波国語辞典 第五版	新明解国語辞典 第七版	明鏡国語辞典 初版	日本国語大辞典 第二版
清 ら か	清い様子。けがれがなく美しい様子。	⊖〔水や大気などが〕(冷たく)澄み切っていて、すがすがしさを感ぜさせる様子。⊖人間の持つ醜い欲望や世俗的な汚れなどとは全く無縁で、神々しささえ感ぜさせる様子。	①汚れや濁りなどがなく、澄んでいて美しいさま。②世俗にけがされたところがなく純粋であるさま。清純なさま。	清く美しいさま。清純なさま。澄んでうるわしいさま。きよやか。
清 い	けがれがない。さわやかだ。きれいだ。ア澄んで濁り、曇りがない。イ利得や欲望など世間の汚れを離れて、純だ、さっぱりしている、また立派だ。	そのものに少しの汚れも認められず、望まれた純粋さを感じさせる様子だ。	①汚れや濁りなどがなく、澄んでいて美しいさま。②世俗にけがされたところがなく純粋であるさま。また、神聖なさま。③肉欲、物欲などにとらわれていないさま。清廉潔白なさま。	□物事について、けがれやよごれがなく、美しいさまである。①けがれのないさま。清浄なさま。また、水や月などの澄みわたっているさまをもう。②さわやかで、気持ちのよいさま。□心、気持ち、動機などについて、けがれやよごれがなく、美しいさまである。①心によこしまな、濁ったところのないさま。公明正大なさま。二心のないさま。忠義なさま。②いさぎよいさま。卑怯でないさま。

¹⁷ 一般的には辞書における意味記述の変化は著しいものではないので、本論文では筆者の手元にある辞書を参考使用にした。

6.1 「清い」の意味構造

辞書の意味記述と本研究で考察された用例を合わせてみると、「清い」の意味は次のように整理される。もともと水関係のことを言う漢字表記「清」のことを考えると、(イ)水が澄んで汚れのないことを表すのは「清い」の基本義だと思われる。水が澄んでいるさまから、(ロ)濁りや汚れがない自然現象や物事、環境の様子、(ハ)気持ちがさっぱりするさま、(ニ)人の心が純真であることなどの意味に拡張し、また人の心が純真であることから、(ホ)欲望など世間の汚れがなく清廉であるさまへと意味が広がったと思われる¹⁸。これらの意味変化はすべてメタファー¹⁹による意味展開である（図3を参照）。

(イ) 二人の愛が変らなければ清い水のまま浮気をすれば黒くなるという魔法の水。（高野正雄『益田太郎冠者伝』）

(ロ1) 清い朝日の流れる通りをぶらぶら歩くのはとても好い気持である。（加藤一雄『雪月花の近代』）

(ロ2) 昔ながらの風情で流漉をしている様が見られます。（中略）できる品物を見ますと、清くて張りがあって誠に立派な品であります。（柳宗悦『手仕事の日本』）

(ロ3) (前略)廃業せなければならなかった米蔵も、まだまだ清いものであった。（折口信夫『かぶき讃』）

(ハ1) そして彼は心が清く洗われるのを感じた。（梶井基次郎『檸檬』、100）

(ハ2) 結婚前には心を張り、体を清くして、美しい恋愛に用意していなければならぬ。（倉田百三『学生と生活』、用例JP）

(ニ) この言葉は、心が清いがゆえに、行ないも清らかであるということです。（武田鏡村『「独楽」という生き方』）

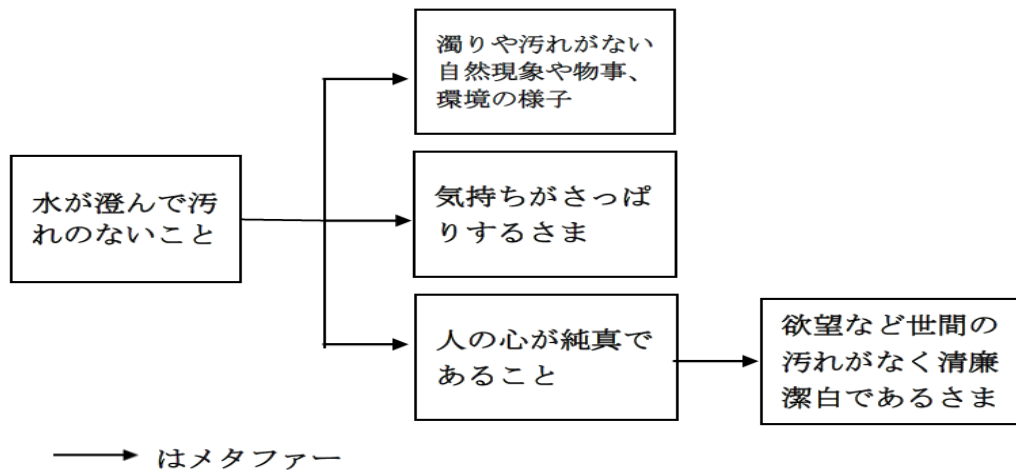
(ホ1) (13) 「自分の理想とする清い政治を藩民は受け入れてくれた。こんなうれしいことはない」（童門冬二『田沼意次と松平定信』）

(ホ2) 道徳的に清く美しく金を使えなんて言ってるんじゃないんだ。

¹⁸ 以下の例文における下線は引用者による。一重下線は考察対象語、二重下線は考察対象語が修飾する語を表す。

¹⁹ 認知意味論では多義語の各意味の展開については類似性によるメタファー（隠喩）、隣接性によるメトニミー（提喩）と一般的な意味によって特殊な意味を表したり、特殊な意味で一般的な意味を表すシネクドキ（換喩）で説明する。詳しくは靱山（2009）などを参照されたい。

(清水義範『バードケージ』)



(図3) 「清い」の意味展開図

6.2 「清らか」の意味構造

「清い」との共通共起名詞の「水、泉、流れ」を見て分かるように、(い)水が澄んで汚れのないことを表すのは「清らか」の基本義である。水が澄んでいるさまからメタファーによって(ろ)濁りや汚れがない自然現象や物事、環境の様子、(は)人の心が純真であることという意味に拡張し、また人の心が純真であることからメタファーによって(に)欲望など世間の汚れがなく清廉潔白であるさまへと意味が広がった。但し、上述した、濁りや汚れがない本質を表す語とは別に、「清らかな存在/雰囲気/風貌/姿/抒情性/信心/感じ/気持ち/感覚/声/歌声/信念/修行/智慧/思い」の用例から見れば、「清らか」には(ほ)濁りや汚れがない本質に対する表現主の感動の気持ちが表されるのである。言い換えれば、同じ共起名詞であっても、「清い水」は水の濁りがない本質をいうが、「清らかな水」は濁りがない水に対する清々しい感覚を表すのである²⁰。これは「原因で結果」というメトニミー²¹によって濁りのない物事に対する感覚、気持ちなどの感動を表す意味変化である(図4を参照)。

(い) 久慈川の清らかな水を利用して漉かれる西の内紙は、那須楮の繊維だけで漉かれている。(久米康生『産地別すぐわかる和紙の見わけ方』)

(ろ) ただ、清らかな自然の中を清冽な風が通り抜けて行くだけの

²⁰ 飛田・浅田(1991)では「清らか」は「清い」に比べてより感覚的で、純粹であることに対する感動の暗示がある、と述べられている。

²¹ 同注14。

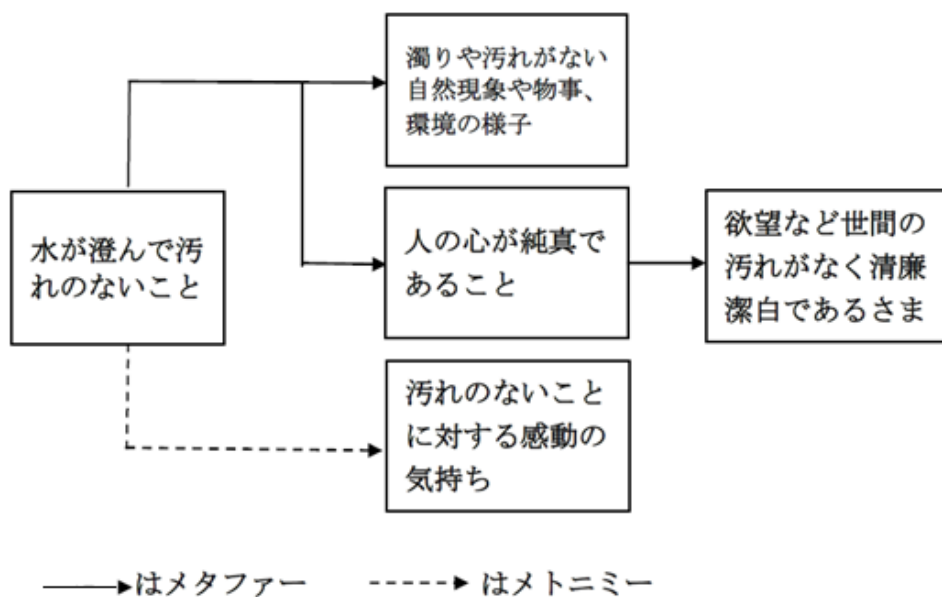
ような歌だった。(新井恵美子『女たちの歌』)

(は) 無色界というのは、欲望も身体もない生き物 (清らかな心だけからなる生き物) の世界のことですが、姿形がありませんので、特定の領域というものを持ちません。(宮元啓一『仏教の謎を解く』)

(に) かれは初めも善く、中も善く、終りも善く、内容もあり文句も備わった教法を説き、完全円満で清らかな修行を説き明かす、と。(前田恵學『釈尊をいかに観るか』)

(ほ 1) 玲瓏とした鈴の音と、清らかな声が静かな山の木立にこだましていく。(NHK「聖徳太子」プロジェクト『聖徳太子信仰への旅』)

(ほ 2) 雨に激しく打たれたあとのこの不思議に清らかな感覚を、しばらく残しておきたい。(村上春樹『海辺のカフカ』)



(図4) 「清らか」の意味展開図

7. 中国語から見る「清らか」と「清い」

本節では、台湾の中国語均衡コーパス『中央研究院漢語平行語料庫』²²における中国語<清>の用法を見たあと、「清らか」及びその同根

²² 中央研究院漢語平行語料庫 (略語: Sinica Corpus) ver.4.0 は 1,000 万語を超えるラベル付きの現代中国語均衡コーパスである。収集されたのは、2010 年に使用が許可された 1981 年から 2007 年までの 19,247 の記事である。

同漢字表記形容詞「清い」の用法にあたる中国語を考察し、台湾人に対する日本語教育の留意点を考える。『中央研究院漢語平行語料庫』における〈清〉の用法は次のようにまとめられる(数字は延べ用例数)²³。

(A) 固有名詞 (162)

明清、清帝國、清交梅竹賽、交清校園、清藝術中心、華僑清

(B) 述語としての形容詞(24)

河水很清、茶味清且苦、眉清眼亮嘴秀、(平仄)平聲清而長、清如湯水的玉米粥、清者自清

(C) 連体修飾語としての形容詞(30)

清水、清波、清溪、清潭、清液、清湯、清氣、清音、清粥、清夢、清模樣、至清之物、至清之味、清的眼睛

(D) 動詞(25)

清肺治咳、清肝退火、清口腔、清腸胃、清肚子、清暑、清毒、清公產、清化糞池、清共

(E) 「名詞+不清」形式における述語形容詞(12)

口齒不清、語意不清、意識不清、視線不清、體制不清

(F) 「形容詞+不清/難清」形式における結果補語(10)

模糊不清、含糊不清、混雜不清、混淆難清

(G) 「動詞+得清/不清」形式における結果補語(84)

說得清、數得清、分不清、看不清、聽不清、說不清、理不清、捉摸不清、糾纏不清、分辨不清

(H) 複合語 (3)

冰清、清寂、清綠

今回の考察では「清+名詞」形式の名詞は多く観察されなかった。形容詞としての〈清〉の多くは「清い」か「清らか」にあたるが、動詞の〈清(肺/口腔)〉は「(肺臓/口腔を) すっきりさせる」ことである。「名詞+不清」、「形容詞+不清/難清」、「動詞+得清/不清」などの形式で用いられる〈清〉は「はっきりしている」という意である。このよ

²³ 紙幅の制限により、中国語の部は類型分類の作業に止まる。

うな中国語の用法から考えてみると、台湾人日本語学習者にとっては、漢字表記が使われた「清らかな人/存在/風貌/姿/抒情性/美しさ/水環境/地/場所/土地/水辺/玉/者/人/女神/天使/少女/聖女/僧侶/信心/魂/心/感じ/感覚/愛/微笑み/歌声/声/信念/修行」や「清い/もの/事/少女/人/心/愛/名/政治/色/水/泉/流れ/海水/眼/思い出/風俗/獣/鳥/微笑み/関係/国/心持」の意味が類推できると思われる。つまり、理解語彙としての学習は難しくないことである。しかし、次の例で分かるように、日中両語における表現は必ずしも同じとは限らない。

- (a) 清らかな愛 <純潔的愛> (『永大當代日華辭典』)
- (b) 清らかな朝 <清爽的早晨> (『永大當代日華辭典』)
- (c) 清らかな歌声 <清脆的歌聲>²⁴ (『日中辞典』)
- (d) 清らかに流れる小川 <水流清澈的小溪> (『日中辞典』)
- (e) 清らかに掃く <掃乾淨> (『永大當代日華辭典』)
- (f) 清い愛 <純潔的愛> (『永大當代日華辭典』)
- (g) 清い交際をつづける <保持純潔的來往> (『永大當代日華辭典』)
- (h) 清い生涯 <清白無辜的一生；光明磊落的一生> (『日中辞典』)
- (i) 清い生活 <清白的生活。舒暢的生活> (『永大當代日華辭典』)
- (j) 清く忘れる <付諸流水，不留芥蒂> (『永大當代日華辭典』)
- (k) 清く水に流す <付諸流水，既往不咎> (『永大當代日華辭典』)

上述したような用法、意味をある程度把握しておかないと、「清らか」を使用語彙にするのが難しいと思われる。特に、「清らか」と「清い」の意味と用法に異同点が見られ、たとえ「清らかな水」「清い水」のような同じ文脈であっても、異なった意味がある²⁵ので、教育上、要注意である。

ちなみに、荒川（2009）によれば、日本人は中国語<清貨>を「清らかな貨物」と思う人がいるが、それは「在庫品を一掃する」という意味である。

8. おわりに

日中両語における漢字共有という現象で、日本語学習が簡単だと

²⁴ 『日中辞典』における漢字は台湾華語(中国語)の表記に直した。

²⁵ 上原(2002)でも、「いい」のような形容詞は基本レベルの意味を表すが、「見事」のような形容動詞は非基本レベルの意味を表すように述べられている。

思っ、日本語を勉強しはじめる台湾人は少なくない。しかし、本論文で見た「清らか」とその同根形容詞「清い」及び中国語の<清>のことを考えてみると、日本語の膠着語、漢字仮名交じり表記、話し言葉的和語の役割、同根同漢字表記の形容詞口形容動詞の並存、同根同漢字表記語の意味的な違いなどの性質は孤立語で、漢字表記の単純化、書き言葉と話し言葉の同質性、形容詞の単一化などの中国語の性質とは全然違う。同じ漢字表記の場合、漢字使用に慣れている台湾人学習者は意味理解が可能であろうが、使用語彙になるかどうかは人それぞれの努力による。このような言語文化の異同点は日本語教育の効果の妨げになることが考えられるので、教師も学習者も気を付けなければならない。

【付記】

本論文は科技部の助成で完成された研究成果の一部である。2021年9月19日、東京未来大学で開催された「日本比較文化学会第43回全国大会・2021年度国際学術大会」で「同漢字表記語から見る日台言語文化の異同点—「Xラカ」形式形容動詞とそれに対応する中国語を中心に」という題で口頭発表した内容に大幅に加筆し、訂正をおこなったものである。二名の匿名査読者より有意義なご意見をいただいたが、心より深謝申し上げる。

参考文献

- 荒川清秀（2009）『中国語を歩く』東京：東方書店
- 上原聡（2002）「日本語における語彙のカテゴリカについて：形容詞と形容動詞の差について」大堀寿夫（編）『認知言語学Ⅱ：カテゴリー化』東京：東京大学出版会、pp.81-103
- 大井紀子（1997）「日本語の「親切」と中国語の<親切>の意味について—國広哲弥の「意義素」説による意味分析の試み」『台湾日本語文學報』第10号、台北：台湾日本語文學會、pp.93-112
- 玉村文郎（1997）「和語は造語力が弱いのか」斎藤倫明・石井正彦編『語構成』東京：ひつじ書房、pp.101-116

- 梶山洋介 (2009) 『日本語表現で学ぶ入門からの認知言語学』 東京：研究社
- 森田良行・村木新次郎・相澤正夫 (1989) 『ケーススタディ日本語の語彙』 東京：桜楓社
- 游能睿 (2013) 「日本語初級語彙における日中同形語の意味および品詞による分類—二字日中同形語を中心に」 『台湾日語教育學報』 第 20 号、台北：台湾日語教育學會、pp.122-151
- 賴錦雀 (2018) 「「柔軟」「やわらかい」「やわらか」「やわ」の考察—コロケーションを中心に」 『台湾日本語文學報』 第 43 号、台北：台湾日本語文學會、pp.161-186
- 賴錦雀 (2021) 「コーパスにおける「Xラカ」と「Xイ」の比較—「高らか」と「高い」を例として」 『台湾日本語文學報』 第 49 号、台北：台湾日本語文學會、pp.155-183
- 林玉惠 (2002) 「字形の誤用からみた日中同形語の干渉及びその対策—台湾人日本語学習者を中心に」 『日本語教育』 112 号、東京：日本語教育学会、pp.45-54

参考資料

- 北原保雄 (2002) 『日本国語大辞典』 第二版、東京：小学館
- 北原保雄 (2002) 『明鏡国語辞典』 東京：大修館
- 国立国語研究所 (2004) 『分類語彙表 増補改訂版』 東京：大日本図書
- 小学館 他 (1987) 『日中辞典』 東京：小学館
- 新潮社 (1995) 『新潮文庫の 100 冊 CD-ROM 版』 東京：新潮社 (100)
- 杉本つとむ・岩淵匡 (1994) 「日本語と隣接諸言語」 『新版 日本語学辞典』 東京：おうふう、p.129
- 田中春美 (1988) 『現代言語学辞典』 東京：成美堂
- 西尾実 他編 (1996) 『岩波国語辞典 第五版』 東京：岩波書店
- 飛田良文 浅田秀子 (1991) 『現代形容詞用法辞典』 東京：東京堂
- 山田忠雄 他編 (2013) 『新明解国語辞典 第七版』 東京：三省堂
- 劉元孝 (1985) 『永大當代日華辭典』 台北：永大書局
- 現代日本語書き言葉均衡コーパス 中納言版

<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search> (2021年2月1日閲覧)
現代日本語 200 万字言語調査語彙表」公開版 (ver.1.0)
<https://ccd.ninjal.ac.jp/mag200.html> (2019年12月1日閲覧)
『日本語教育』掲載論文 検索エンジン
<http://www.nkg.or.jp/journal/j-search.htm> (2021年8月1日閲覧)
用例 JP <https://yourei.jp/> (2021年8月20日閲覧)
LARP at SCU CD-ROM (2009) 東呉大学
NINJAL-LWP for BCCWJ <https://nlb.ninjal.ac.jp/headword/AN.00680/>
(2021年2月10日閲覧)
中央研究院漢語平衡語料庫 <http://asbc.iis.sinica.edu.tw/>
(2021年8月1日閲覧)

付録

I 「清らかな (名詞)」形式の用例 (BCCWJによる)

- (1) ある日を境に清らかな存在といわれていた『エルフ』が世界から消えた(Yahoo!ブログ, 2008, Yahoo!ブログ)
- (2) 上下に空間を広くとると、意外に清らかな雰囲気が出る。(書道II)
- (3) しかも朱雀帝もまた美しく清らかな風貌の人として描かれているのである。(瀬戸内寂聴「源氏物語」を旅しよう)
- (4) なるほど夫人は臨終の床で清らかな姿を取り戻したかもしれない。(野崎歓『フランス小説の扉』)
- (5) 鑑賞者の郷愁を駆り立てる純日本的で清らかな抒情性が込められている。(小林淳『日本映画音楽の巨星たち』)
- (6) 金色に輝く如来の御身の清らかなことは須弥山のようにあり、その静かな歩みは聖像の運びにも似ています。(中西智海監修『浄土真宗』)
- (7) その清らかな美しさは、夏の外出をエレガントに彩ります。(文化出版局『ミセス』)
- (8) 下水の高度な処理を一層推進することにより自然の循環システムを健全に保ち、清らかな水環境を創出するなど、その役割は多方面にわたりますますます重要となっている。(大蔵省印刷局『建設白書平成11年版』)

- (9) 天之冬衣が空しくなる地、水が澄んで清らかな地にやってきました。
(中西信伍『神代巻の現代語訳』)
- (10) それで今もこの地を、潔い土地、水が澄んで清らかな土地の意味で清地と呼ぶのです。(中西信伍『神代巻の現代語訳』)
- (11) バスルームを清らかな場所として保つには？(マーサ・スチュワート・リビング・オムニメディア株式会社編著;森泉亮子訳 『グッドシングズオーガナイジング』)
- (12) 方丈前庭をはじめ、松の美が清らかな境内には、禅の美をいたる所に感じることができる。(昭文社『京都へでかけよう』)
- (13) 清らかな水辺を好むことから、水質の指標鳥とされるカワセミは、“人と自然が共生する環境保全のまち”を目指す枚方市にふさわしく、魚が住める水のきれいな河川や池などに生息する鳥として、四季を通じて市内全域で観察することができます。(Yahoo!知恵袋)
- (14) 白く清らかな圭、すなわち、上が尖り下が四角の玉は、諸侯を封ずるしるしとし、また祭祀などにも用いる尊いものである。(諸橋轍次『中国古典名言事典』)
- (15) 「愛する夫や子どもの幸福を真心から願う女性の体内から、清らかな玉が出てくる」という発想なのである。(島内景二『歴史小説真剣勝負』)
- (16) なんと清らかなお方であろう。(桐生操『本当は恐ろしいグリム童話』)
- (17) 力を望む者には 限りない力を清らかな者には せめて夕べの祈りをカインには悔いを与え給え(Yahoo!ブログ)
- (18) 私には初め何が何やらわからなかったが、とにかく上級生に対しては、世俗を脱したもつとも清らかな人間たちと信じていたので、訳もなくこれに賛同した。(北杜夫『マンボウ交友録』)
- (19) どういうひとであれ、桔梗のように清らかな人であることはたしか。
(朝日新聞社『俳句朝日』)
- (20) トスカから「歌に生き恋に生き」ラ．ボエームから「私の名はミミ」カタラーニ、ワリーから「ああ、ふるさと」やノルマから「清らかな女神」などドラマチックなソプラノを聴きたいならカラスはまさに絶品

だ！（Yahoo!ブログ）

- (21) これが本当の清らかな天耳通である。（白隠『夜船閑話・遠羅天釜・藪柑子』）
- (22) 今でも忘れられない人は何もしていない清らかな天使のような相手だと考えているから心に残っているのでしょう。（Yahoo!知恵袋）
- (23) 私の鳩、清らかな少女よ（(ジルベール・シヌエ著;阪田由美子訳『サファイアの書』）
- (24) この上なく清らかな聖女です。（野崎歓『フランス小説の扉』）
- (25) しかも、そのご生活は肉食妻帯を一切なさらず、本当に清らかな僧侶して、清僧としての人生を送られたものでありますから、その法然上人のお姿を見ておりますお弟子達のほとんどは、あのようになければ救われないんだ、あのようになければ私達は浄土往生させていただくことができないんだ、と解釈をされたわけでございます。（梯實圓、久堀弘義『仏・法・僧をうやまって生きる』）
- (26) 宗旨庄屋になった道伸は、その職務を公平な立場で務めたので、人々は“清白の良吏”(汚れなく清らかな役人)とよんだといわれています。（石川松太郎ほか編纂『人づくり風土記』）
- (27) 今ぞ、まことの清らかな大和を取り戻す時、我等こそは、降魔の尖兵なるぞ」（志木沢郁『信貴山妖変 嶋左近戦記』）
- (28) 彼女は、純白の雪のように清らかな信心の模範を、後世に残してくれた。（池田大作『新・人間革命』）
- (29) ところがそこに新しく、美しい清らかな「あの世」（浄土）の世界があると教えた仏教が伝わり、仏は関係者の行ないいかんによって故人をその浄土に往生させてくれるというので、この教えが人々の間に普及するようになる。（松濤弘道『仏像の見方がわかる小事典』）
- (30) そして心の清らかなかたです。（志鳥栄八郎『志鳥栄八郎のオーケストラ名曲大全』）
- (31) その若々しく子供らしい意識を脅かし、慄然と恐れをののかしめた凌辱は、天使のやうに清らかな彼女の魂を羞恥の念に浸して、風吹き荒ぶ湿っぽい雪どけの夜に、闇と寒さの中で、誰の耳にも入らない絶望の叫

びを一声ふり絞つて、容赦ない悪魔の嘲笑とともに身を亡ぼしたのである。(秋山駿『私の『罪と罰』』)

(32) 「ジェルトリュードの清らかな魂が、みすみすお前ににごされるのを見るくらいなら」と、語調を荒らげて叫んだ、「いっそ二度とお前の顔を見ないほうがまだ。(ジッド著;神西清訳 『田園交響楽』)

(33) 賢治と妹の清らかな心が雪の感触のなかに伝わってくるようだった。(青木登文・写真 『名作と歩く東京山の手・下町』)

(34) ひょうひょうとして、清らかな感じ。(書道 II)

(35) 一年間の塵を払い、清らかな気持ちで新年を迎えたいと人々は願う。(小林英起子『ケルン大聖堂の見える街』)

(36) 雨に激しく打たれたあとのこの不思議に清らかな感覚を、しばらく残しておきたい。(村上春樹『海辺のカフカ』)

(37) 相手が何を言い、何をしようと、いったん疑いの種子の落ちた心の土壌には安らかな信頼と清らかな愛が戻るのはまず不可能である。(吉田秀和『吉田秀和全集』)

(38) それが終わると、彼女は清らかな微笑みをたたえて、私を平手打ちにした。(キャンデイス・ディロン著;秋岡史訳『FBI 特別捜査官キャンデイス』)

(39) これこそ本当に清らかな無生の声である。(白隠『夜船閑話・遠羅天釜・藪柑子』)

(40) 清らかな歌声に、健気な心意気があふれていた。(池田大作『新・人間革命』)

(41) 清らかな読経の声は、全てものを浄化していくかのように、粛々と単調に堂内に響く。(池田大作『新・人間革命』)

(42) 天使のような清らかな声の聖歌隊の少年たち。(MISS)

(43) 白道とは浄土への往生を願う清らかな信念のことで、宗安という行者名だったのをお上人が木喰戒を授けたときに改名させたのだ。(立松和平『木喰』)

- (44) かれは初めも善く、中も善く、終りも善く、内容もあり文句も備わった教法を説き、完全円満で清らかな修行を説き明かす、と。(前田惠學『釈尊をいかに観るか』)
- (45) 「定善義」には「金剛といふは、すなわち無漏の体なり」とあり、きよらかな智慧をあらわす語とする。(教学伝道研究センター編纂『浄土真宗聖典』)
- (46) それに、人を殺すことを願ってしまったら、カミサマを信じる清らかな思いが、穢れてしまうような気がした。(上橋菜穂子作;二木真希子絵『神の守り人』)

II 「清い (名詞)」形式の用例 (BCCWJによる)

- (1) 雪は純白であることから清いもの、めでたいしるしとされる。(長崎巖『きものと裂のことば案内』)
- (2) 私はランスロットさまにもほかの人にも清い乙女のままです。(四宮満『滅びのシンフォニー』)
- (3) 特に近寄り難く美しいのは、清い少女が群れつどう、レンガ造りの我が聖マリア女学院。(ゆうきみすず『きらめく星空に哀愁のチャルメラが聞こえる』)
- (4) 心の清い人達は、さいわいである。(梶原和義『ユダヤ人を中心にして世界は動いている』)
- (5) あの男の清い事は、空にある月のようであろう。
(鶴見俊輔|ほか編『新・ちくま文学の森』)
- (6) 清い心で歌を詠むつもりなら林に隠れ、野に宿ることが賢明であるぞ。
(堤亮二『百物語』)
- (7) 二人のあいだにうららで清い敬愛の情の流れをとらえた。
(村尾次郎『桓武天皇』)
- (8) 互いに信頼する友、妹と兄が変わるものなき深い清い愛で結ばれて、騒がしい世に静かなる所を見出し得られたなら。(鳩山一郎著;川手正一郎編・監修『若き血の清く燃えて』)
- (9) その結果、神の御名や天皇の御名をつけた民が贈り物とされて他人の奴婢に入れられ、清いその名が汚されることとなり、ひいては民の心が

- 整わず、国の政治が立ちゆかなくなった。(井上光貞|監訳『日本書紀』)
- (10) また救いを受け入れようとする者が皆、神の息子、娘として、清い特権を回復するまで、神は満足なさないことを証しするように、わたしたちに望んでおられる。(エレン・G・ホワイト著;福音社編集部訳『ミニストリー・オブ・ヒーリング』)
- (11) 「自分の理想とする清い政治を藩民は受け入れてくれた。こんなうれしいことはない」(童門冬二『田沼意次と松平定信』)
- (12) 昔から舞妓はんの長襦袢の色は赤と決まっています。赤は清い色やさかい、男はんと雑魚寝して、ちょっとでも悪さしはったら、長襦袢の鮮やかな赤が、くすんだ色に変わる、というのどす。(三宅小まめ、森田繁子『祇園に生きて』)
- (13) 校舎の北側は山で窓からはなだらかな斜面が見え、寮の西側には清い水をたたえた川が流れている。(花衣沙久羅『全寮制男子校物語!』)
- (14) 清い朝日の流れる通りをぶらぶら歩くのはとても好い気持である。(加藤一雄『雪月花の近代』)
- (15) しかし、ここにわく清い泉はその国の生命の水で、ヒュドラが住むためそれがくめないで、国民は長い夏をかわき苦しんでいた。(野尻抱影『星座のはなし』)
- (16) 冬と春になると清い流れがさらさらとながれている。
(井沢宣子『日本語教師が見た中国』)
- (17) このごろ鬱陵島では群小というおいしくて風変りな海産物を飲もうとするグルメ(?)たちの足がひんぱんだ。清い海水でばかり暮すという「群小」(Yahoo!ブログ,2008 Yahoo!ブログ)
- (18) 「被圧迫者、被排除項の眼は実際にはつねに清い眼に違いないが、排除者と圧迫者によってつねに邪しまな眼と断定される。」とも述べている。(菊野一雄『現代社会と労働』)
- (19) どうぞ貴方は誰かさんの清い思い出に、しっかりと浸っていて下さい。
(西半美輪『舞姫様と福太郎とその仲間』)
- (20) 国家の危機と見れば終日恐懼し、清い風俗をひろめて汚濁を掃除し、集草の威厳をふるって世俗を肅正し(略)(葛洪著;本田濟訳註『抱朴子』)

- (21) 「(前略)ノアは、祭壇を築いて、すべての清い獣と、すべての清い鳥との内から一匹ずつを選び、それらを主への祭壇に笹げた」これが『創世記』に書かれたノアの洪水の話である。(平川陽一と超科学研究会『アトランティス失われた帝国の謎』)
- (22) また愛と苦悩のこもったお前の清い微笑みのなかに。(後略)
(マルセル・ブルースト著;保苺瑞穂編 『ブルースト評論選』)
- (24) ちなみに彼とはずっと清い関係です (笑)
(Yahoo!知恵袋, 2005, 恋愛相談、人間関係の悩み)
- (25) あれだけ「清い国、清い国」と強調しておきながら、やっていることはちっとも清くない。(Yahoo!ブログ)
- (26) ((前略)ところが一方から見ると、ああした無邪気な連中は、まったく清い心持ちからそういうこともするので、これをりっぱな博愛だと信じて疑わないんですからね)。(ドストエーフスキイ作;米川正夫訳『白痴上』)